

1. Bf109F2 (ガーラント・スペシャル)について

メッサーシュミットBf109シリーズは1936年頃から実戦に投入されたドイツ空軍を代表する戦闘機で、およそ3万機以上が生産された。速度と加速性能に優れ、一撃離脱戦法に長じた設計であった。F型では徹底した空力洗練がなされ、E型までの角張った外観は優美な曲線を基調としたものに改められた。その結果F型は傑出した空中性能を手に入れたものの、一方でE型までの機体に装備されていた翼内機銃が廃止された為、一部のベテランパイロットには不評だった。JG26(第26戦闘航空団)司令のアドルフ・ガーラント中佐もその一人である。その事を知っていた空軍元帥ヘルマン・ゲーリングは、ガーラントの戦闘機隊總監就任の記念に武装を強化した特別仕様のF型を贈っている。この特別仕様機はBf109F2をベースにしたもので、機首武装を強化したものと翼内機銃を増設したものの2機が存在した。

2. キットについて

キットは2004年開発の新規金型を用いており、形状・モールド組み立て精度とも十分に満足のいくものです。主脚収納部はF4以降の丸型となっています。特筆すべきは、塗装済での供給を想定してかアンダーゲートが採用されている点です。ちなみに塗装はF1~F4の6種類(+スペシャル)が用意されており、防塵フィルター付のオイルクーラーの部品も付属します。

3. 製作と塗装について

全般に良く出来たキットなのですが、ノーズコーンがやや丸過ぎると感じたので先端にエポキシパテを盛り、モーターカノン銃口を流用パーツで追加しました。今後の量産に備えて型取りしております。また、キットのままではプロペラが下がってきてカッコ悪いので、プロペラ軸を受ける為のパイプを機首側に追加(市販動力パイプ部品を使用)しています。F2初期型の特徴である尾部の補強板をマイクロラインテープにて再現し、主脚収納部の形状を変更。キャノピー内部にはプラ板より切り出した防弾板を付けてみました。

2機存在したガーラントスペシャルの内、今回は翼内機銃を増設したもの(W.Nr5750)を製作しています。MGFF/M 2.0mm機銃は0.5mmのステンレス線にて追加し、主翼下面の弾倉バルジは同社スピットファイヤのものを型取りして接着しています。

塗装はRLM 76(グンゼ 缶スプレー)を吹き、スーパークリア光沢(グンゼ 缶スプレー)でコートした後、イタレリ1/72ガーラント機の塗装図等を見ながら筆塗りで迷彩塗装を行いました。塗り分けにはエナメルカラー(タミヤ)を用い、RLM 74はフィールドブルー+明灰白色、RLM 75はダークグレイ+明灰白色、RLM 02はRLMグレイ+スカイ(いずれも調合色)です。ぼかし部分は溶剤を含ませた筆で軽く叩いてみました。味方識別色はラッカー系のイエローFS13538、プロペラプレートはラッカー系のブラックグリーンです。マーキングはMDプリンタで作成したデカールで行っています。特別仕様機ということで、最後のクリアーコートには光沢を用いました。

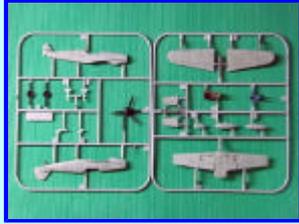


前面

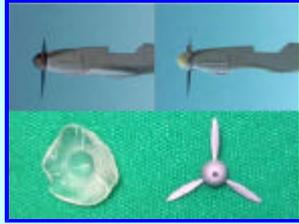


背面

4.製作過程



ランナー状態で機体の塗装を落としたところ。



キット状態(左)のノーズコーンとの比較。下は量産用の凹型。



主脚収納部を角型に変更、尾部に補強板追加、主翼下弾倉バルジを追加。



エナメル系の調合色で塗り分けた上から自作デカールを貼付している。

MENU